

日本レチノイド研究会 第31回 学術集会

学術集會会頭 瀧谷 公隆 (大阪医科大学 医学教育センター 専門教授)

令和2年10月17日(土)、大阪医科大学(新講義実習棟P101教室)にて、日本レチノイド研究会 第31回学術集會を主催いたしました。本研究会は、1989年に国立がんセンターで開催された「レチノイドとがん」と題したシンポジウムを契機として発足した研究会です。レチノイドを通じて、合成化学、薬学、生物学、農学、医学を包括した広い分野の研究者が所属しています。毎年秋に学術集會を開催しておりますが、国内外のレチノイドや核内受容体研究に関わる研究者が専門分野を超えた交流を行っております。10年前に玉井浩名教授が第21回を主催され、今回は2回目の本学開催となります。

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、学術集會の開催方式については非常に悩みましたが、1)大学が学内の集會開催を許可されたこと、2)本研究会の目的は、異分野の研究者の交流であること、3)会員が対面形式の開催を希望されていたこと、4)時期的に県を越えた移動が可能であること から、対面形式の開催に踏み切りました。但し、感染予防を徹底するために、以下のことに気をつけました。1)事前登録制にする、2)開催前後2週間の健康調査票を送付、3)会場での体温測定・問診、4)マスク着用、5)アルコール手指消毒の徹底、6)着座は1m以上あける、7)発表者および座長はフェイスシールドの着用、などです。当日は非常にスムーズに上記の感染予防対策が行われました。参加者の皆様のご協力に感謝申し上げます。

今回のテーマは、「次世代に繋げるレチノイド研究」としました。一般演題数は10題であり、3つの講演がおこなわれました。榎島 誠教授(日本大学医学部 生化学教室)に「核内受容体によるコレステロール胆汁酸代謝及び免疫の調

節」、汐田剛史教授(鳥取大学医学部 ゲノム再生医学講座)に「深化する再生医療の動向と創薬への応用」のご講演をお願いいたしました。また、本研究会の創立者である首藤紘一名誉教授(東京大学)に「タミバロテンのアルツハイマー型認知症に対する二重盲検試験」をオンラインでご講演していただきました。参加者は小人数ながら、対面形式の研究会の利点を十分に生かして、非常に活発な討論が行われました。

また、若手研究者の育成および参加を目的として、日本レチノイド研究会奨励賞を設定しています。創始メンバーのお名前および研究分野から、首藤賞(医薬化学)、武藤賞(臨床医学・栄養学)および藤木賞(基礎医学・生物学)に分かれています。首藤賞には分子機能研究所 辻 一徳先生が、武藤賞には理化学研究所 肝がん予防研究ユニット 秦 咸陽先生が、藤木賞には星薬科大学 衛生化学研究室 長谷川晋也先生が授与されました。いずれも秀逸なご発表でした。

約30人のご参会を頂き、成功裡に集會を終えることができました。

もし、本研究会にご興味がありましたら、ホームページをご参照ください。

日本レチノイド研究会
<http://retinoid.umin.jp/index.html>

謝辞：学術集會開催にあたり大阪医科大学 医師会よりご支援を賜りました。医師会会員の皆様方に心より深謝申し上げます。また、学術集會運営において、ご協力いただきました小児科学教室 芦田明教授および医局員の方に感謝申し上げます。